

第1学年国語科学習指導案

日 時：平成26年11月12日（水）

場 所：1年1組教室

授業者：川本 朋子

1. 単元名 こえにだしてよもう
教材名 『くじらぐも』

2. 指導の立場

（1）教材観

本教材は、4時間目の体育の時間に現れた雲のくじらに乗って、子どもたちと一緒に大空の中で遊ぶという想像の世界へ行き、想像の世界で存分にくじら雲と遊んだあとにまた、現実に戻ってくるという、児童が安心して空想の世界に遊ぶことができる教材である。また、会話文に「 」を使うことを初めて学習する単元であり、今までの読み物の中では自然に触れてきた会話文であるが、しっかり確認することで、くじらぐもに手紙を書く時にも意識できるようにさせたい。

子どもたちは、これまで「おむすびころりん」や「おおきなかぶ」で繰り返しの言葉や文章のリズムを考えながら音読するという学習をしてきている。

本単元では、これまでの学習を生かし、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読み、読み取ったことをもとに自分の考えをもち、表現することができるようにする。これらの力を身に付けるために、単元の出口に「すきなばめんをしょうかいしておんどくはっぴょうかいをする。」言語活動を位置付ける。子どもたちは、挿し絵や動作化から、言葉をもとに想像することを楽しみ、楽しんだことを音読し、音読してまた想像を広げ、読み進めることができる考える。

（2）研究との関わり

【児童の実態】

- ・「おむすびころりん」「おおきなかぶ」では、ほとんどの児童が、言葉や文章のリズムを考え、楽しく音読することができるようになってきている。
- ・挿絵を見たり動作化を取り入れたりすることにより、場面の様子や、登場人物の様子を理解することができた。
- ・教科書の本文や挿絵から、気付いたことを進んで発表するが、わけを付け加えて話したり自分の経験と比べて話したりすることにはやや抵抗のある児童がいる。

研究内容1

（1）つけたい力を明確にし、単元を貫く言語活動を設定する。

①つけたい力

- ・場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む力。
- ・読み取ったことをもとに自分の考えをもち、表現する力。

②単元を貫く言語活動の設定

- ・「好きな場面を紹介して音読発表会をしよう。」という活動を単元の出口に設定し、児童が生き生きと想像を広げながら読み進められるようにする。毎時間のまとめとして、吹き出しに書いたことを交流して、音読するという活動へとつなげたい。

研究内容2

（1）自分の考えを確かにもつための手立てを工夫する。

- ・場面の様子や登場人物の様子をとらえるために、登場人物のしたことや言ったことをもとにして、動作化したり、役割読みをしたりする。

（2）考えを広げ、深めるための効果的な交流活動を工夫する。

- ・動作化を見合うことによって、読み深めさせたい。また、深めの発問をすることで、全員が考える場をつくりたい。

【めざす児童の姿】

- ・「くじらぐも」や「子どもたち」になりきって動作化することにより想像を豊かに広げ、場面の様子や登場人物の様子を読み取ることができる。
- ・読み取ったことをもとに、場面の様子や登場人物の行動や様子を声に表して音読発表会をすることができる。

3. 本時のねらい

呼びかけあっている子どもたちとくじらぐもの様子を動作化することを通して、子どもたちがどんどん楽しくなり、はりきっている様子を読み取ることができる。

4. 本時の展開（ 3/10 ）

	学習活動	個に応じた指導・援助 ◎交流の形態 ※評価規準
つかむ	1. 前時の場面を振り返る。 ・四時間目に、一ねん二くみの子どもたちがたいそうをしていると、そらにくものくじらがあらわれて、いっしょに体操やかけあしをした。 2. 課題を確認する。 よびかけあっている子どもたちのようすをよみとろう。 3. 二場面を音読する。 4. 音読をしながら、子どもたちとくじらの様子を読み取る。 (全体交流)	・前時の学習のまとめを掲示しておき、1年2組の子どもたちが体操をしていると、くものくじらがあらわれたことを確かめ、本時の学習につなげる。 A:呼びかけあう様子を思い浮かべて音読している児童に対して ・どうして、そのように読んだのか理由を考えさせる。 ・さし絵や文、前の言葉などからも確認させる。 B:呼びかけあう様子が考えにくい児童に対して、 ・何回も言葉や行動を動作化することにより、呼びかけあう楽しさや、一緒に遊びたい気持ちを引き出すようにする。
考えをもつ	「おうい。」 ・空の遠くの方まで聞こえるように呼んでいる。 ・みんなは、大きな声で呼んでいる。 ・「おうい。」とくじらもこたえてくれたよ。 「ここへおいでよう。」 ・みんなが さそうと、くじらもさそってくれた。 ・あのくじらは、きっと学校が好きなんだね。 「よしきた。くものくじらにとびのろう。」 ・ようし、みんなでくものくじらにとびのろう。 ・よっしゃ、とびのろう。みんなでがんばるぞ。 ・男の子も女の子もくもに乗りたくてはりきっているよ。	◎全体交流 動作化をすることによって、くものくじらと呼びかけあっている子どもたちに同化できるようにして、動きのよさを広げるようにする。
深める	【深めの発問】 みんなはどれくらいはりきっているのかな。 ・ぜったいにみんなで飛び乗りたい。 ・くじらが呼んでくれたから、どうしても飛び乗りたい。 ・みんなで一緒に遊べるかもしれないから、にこにこの顔で言っている。	【深めの発問の意図】 「ここへおいでよう。」と誘われ、みんなで一緒に雲に乗りたい気持ちが高まってきた様子を考えられるようにする。
まとめる	5. 「よしきた。くもの くじらにとびのろう。」とはりきっている子どもたちの気持ちを吹き出しに書く。 ぼくたちが とんでいくからね、 みんなで いっしょに あそぼう。まってね。 6. まとめの音読をする。 ・「よしきた。くもの くじらにとびのろう。」 男の子も、女の子も、はりきりました。 の後に、吹き出しに書いたことを付け加えて読む。	※くじらと一緒に遊ぶために、空に行きたいと思っていることを想像している。 【発言・吹き出し】

第1学年国語科学習指導案

日 時：平成26年11月12日（水）

場 所：1年2組教室

授業者：木村 淳子

1. 単元名 こえにだしてよう

教材名 『くじらぐも』

2. 指導の立場

（1）教材観

本教材は、4時間目の体育の時間に現れた雲のくじらに乗って、子どもたちと一緒に大空の中で遊ぶという想像の世界へ行き、想像の世界で存分にくじら雲と遊んだあとにまた、現実に戻ってくるという、児童が安心して空想の世界に遊ぶことができる教材である。また、会話文に「 」を使うことを初めて学習する単元であり、今までの読み物の中では、自然に触れてきた会話文を意識させることでくじらぐもに手紙を書く時にも活用できるようにさせたい。

子どもたちは、これまで「おむすびころりん」や「おおきなかぶ」で繰り返しの言葉や文章のリズムを考えながら音読するという学習をしてきている。

ここでは、これまでの学習を生かし、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読み、読み取ったことをもとに自分の考えをもち、表現することができるようにする。これらの力を身に付けるために、単元の出口に「すきなばめんをしょうかいしておんどくはっぴょうかいをする。」言語活動を位置付ける。子どもたちは、挿し絵や動作化から、言葉をもとに想像することを楽しみ、楽しんだことを音読し、音読してまた想像を広げ、読み進めることができると思う。

（2）研究との関わり

【児童の実態】

- ・「おむすびころりん」「おおきなかぶ」では、ほとんどの児童が文章のリズムに合わせて楽しく音読することができるようになってきた。しかし、聞くことで暗記をし、文字を見て読むことに抵抗のある児童が5人程いる。
- ・「ゆうだち」では、挿絵と叙述を手掛かりに、登場人物の動きを動作化することで場面の様子を理解することができた。しかし、動作化が難しい児童は5名程度いる。
- ・日常会話で使わない語彙については、意味が分からない児童がほとんどである。しかし、新しい言葉を覚えることは楽しく、使ってみたいという意欲をもっている。
- ・お話の楽しかったことを中心に自分の経験と比べて感想をもつことができた。しかし、進んで話すことに抵抗のある児童が8名程度いる。

研究内容1 （1）付けたい力を明確にし、単元を貫く言語活動を設定する

①付けたい力

- ・場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む力。
- ・読み取ったことをもとに自分の考えをもち、表現する力。

②単元を貫く言語活動の設定

- ・「好きな場面を紹介して音読発表会をしよう。」という活動を単元の出口に設定し、児童が生き生きと想像を広げながら読み進められるようにする。毎時間のまとめとして吹き出しに書いたことを交流して、音読するという活動へとつなげたい。

研究内容2

（1）自分の考えを確かにもつための手立てを工夫する。

- ・場面の様子をとらえるために、子どもたちになりきって動作化をしたり、役割読みをしたりする。

（2）考えを広げ、深めるための効果的な交流活動を工夫する。

- ・動作化で気を付けたことや、動きの変わったところを交流することで、読み深めさせたい。また、深めの発問をすることで、全員が考える場をつくりたい。

【めざす児童の姿】

- ・「くじらぐも」や「子どもたち」になりきって動作化することにより想像を豊かに広げ、場面の様子や登場人物の様子を読み取ることができる。
- ・読み取ったことをもとに、場面の様子や登場人物の行動や様子を声にして音読発表会をすることができる。

3. 本時のねらい

3回繰り返される「天までとどけ、一、二、三。」の音読や動作化を通して、子どもたちのくじらぐもに飛び乗りたいという気持ちが高まっていく様子を読み取ることができる。

4. 本時の展開（4／10）

	学習活動	個に応じた指導・援助 ◎交流の形態 ※評価規準
つかむ	1. 前時の場面を振り返る。 ・くものくじらに乗りたいたりはりきった。 2. 課題を確認する。 くじらにとびのときのみんなのようすをよみとろう。	・前時までの学習のまとめを掲示しておき、「くじらにとびのろう。」とはりきっていた子どもたちの様子を本時の学習につなげる。
考えをもつ	3. 三場面を音読する。 4. 音読や動作化を通して、子どもたちがくじらに飛び乗るまでにどんなことをしたか、くじらはどんなことをしたかを読み取る。（全体交流） 1回目「天までとどけ、一、二、三。」 ・みんなで、手をつないでまるいわになって、ジャンプした。 ・いっしょにとぶのは、大変。 ・やっと、三十センチぐらいとんだ。 ・がんばったのに、思ったよりとべない。 ・みんなで手をつないだままとぶのは難しいな。 2回目「天までとどけ、一、二、三。」 ・くじらが応援してくれるから、がんばろう。 ・さっきより、もっととぶぞ。 ・みんなで、声をそろえてとぶぞ。 ・こんどは、五十センチぐらいだ。 ・さっきより、とべたぞ。 ・さっきよりは、とべたけど全然くじらにとどかない。 3回目「天までとどけ、一、二、三。」 ・本当に、今度こそ絶対にとぶぞ。 ・くじらがすごく応援しているからがんばるよ。 ・みんな力を合わせて がんばろう。 ・みんなで一生懸命にとぶぞ。	A：3回の「天までとどけ、一、二、三。」の言い方や動作がちがう児童に対して ・どんなことを思って言ったのか考えさせる。 ・言い方や動きの変わっているところを気付かせる。 B：3回の「天までとどけ、一、二、三。」の言い方や動作に変わりがない児童に対して ・前より高くとぶようにさせる。高くとぶために、声が大きくなったり、力を入れたりしていたことに気付かせる。
深める	【深めの発問】 「天までとどけ、一、二、三。」の言い方は同じだったでしょうか。 ・声がどんどん大きくなった。 ・飛びたいという気持ちで大きくなった。 ・頑張ろうという気持ちで大きくなった。	◎全体交流 動作化をすることによって、くじらに飛び乗ろうとする子どもたちに同化できるようにして、動きのよさを広げるようにする。
まとめる	「せんせいと子どもたち」 ・かぜが、みんなを空へふきとばした。 ・あつというま。 ・手をつないだまま、くものくじらにのっていた。 5. 3回目「天までとどけ、一、二、三。」で、くものくじらに乗った子どもたちの気持ちを吹き出しに書く。 みんなで力を合わせてよかった。くじらがおうえんしてくれたから、がんばれたよ。 6. 吹き出しに書いたことを入れて音読する。	【深めの発問の意図】 「天までとどけ、一、二、三。」の言い方に力が入っていることを確認し、気持ちがどんどん高まったこと、みんなの気持ちがひとつになったことについて考えられるようにする。 ※子どもたちのくじらぐもに飛び乗りたいという気持ちが高まっていく様子を読み取り、想像している。 【発言・吹き出し】

第1学年国語科学習指導案

日 時：平成26年11月12日（水）

場 所：体育館

授業者：岡本 淳子

1. 単元名 こえにだしてよう
教材名 『くじらぐも』

2. 指導の立場

（1）教材観

本教材は、4時間目の体育の時間に現れた雲のくじらに乗って、子どもたちと一緒に大空の中で遊ぶという想像の世界へ行き、想像の世界で存分にくじら雲と遊んだあとにまた、現実に戻ってくるという、児童が安心して空想の世界に遊ぶことができる教材である。また、会話文に「 」を使うことを初めて学習する単元であり、今までの読み物の中では、自然に触れてきた会話文を意識させることでくじらぐもに手紙を書く時にも活用できるようにさせたい。

子どもたちは、これまで「おむすびころりん」や「おおきなかぶ」で繰り返しの言葉や文章のリズムを考えながら音読するという学習をしてきている。

ここでは、これまでの学習を生かし、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読み、読み取ったことをもとに自分の考えをもち、表現することができるようにする。これらの力を身に付けるために、単元の出口に「すきなばめんをしょうかいしておんどくはっぴょうかいをする。」言語活動を位置付ける。子どもたちは、挿し絵や動作化から、言葉をもとに想像することを楽しみ、楽しんだことを音読し、音読してまた想像を広げ、読み進めることができる考える。

（2）研究との関わり

【児童の実態】

- ・「おむすびころりん」や「おおきなかぶ」の学習で繰り返しの言葉や文章のリズムを考えながら音読することができるようになってきている。しかし、挿し絵や動作化から場面の様子や登場人物について想像を広げながら読むことができない児童が7、8名いる。
- ・自分の考えを発表したいという気持ちは、だんだん高まり発表者も増えてきた。自分の思いを話す児童は、15人くらいになってきた。
- ・毎日の音読により、ほとんどの児童が大きな声で読めるようになってきた。2、3人は、指で字面を追って読んでいる。

研究内容1

（1）つけたい力を明確にし、単元を貫く言語活動を設定する

① つけたい力

- ・場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む力。
- ・読み取ったことをもとに自分の考えをもち、表現する力

② 単元を貫く言語活動の設定

- ・「好きな場面を紹介して音読発表会をしよう。」という活動を単元の出口に設定し、児童が生き生きと想像を広げながら読み進められるようにする。毎時間のまとめとして吹き出しに書いたことを交流して、音読するという活動へとつなげたい。

研究内容2

（1）自分の考えを確かにもつための手立てを工夫する。

- ・第2次で場面をとらえるために、子どもたちになりきって動作化したり、役割読みをしたりしてきた。本時はそれを生かして、自分の好きな場面や友だちと声を合わせて読みたいところを探し、訳も考えるために前時までの学習を掲示などで振り返る。

（2）考えを広げ、深めるための効果的な交流活動を工夫する。

- ・グループで好きな場面や好きなところを、友だちと声を合わせて楽しく読んで、音読発表会ができているかどうかを見合う。

【めざす児童の姿】

- ・「くじらぐも」や「子どもたち」になりきって動作化することにより想像を豊かに広げ、場面の様子や登場人物の様子を読み取ることができる。
- ・読み取ったことをもとに、場面の様子や登場人物の行動や様子を声に表して音読発表会をすることができる。

3. 本時のねらい

自分の好きな場面を理由を付けて紹介し、友だちと声を合わせて楽しく音読することができる。

4. 本時の展開（ 8 / 10 ）

	学習活動	個に応じた指導・援助 ◎交流の形態 ※評価規準
つかむ	1. 課題をつかむ。 すきなところをともだちとこえをあわせて、おんどくはっぴようかいをしよう。 2. 好きな場面や友だちの声を合わせて読みたいところを全体交流する。 ・ぼくは、たいそうをしていたら、そらにくじらぐもがあらわれて、ぼくたちといっしょに、たいそうをしているところがすきです。いっしょにたいそうをしたら、楽しいからです。 ・わたしは、みんながジャンプしているところがすきです。みんなで、声を合わせてジャンプをするところが楽しかったから、読みたいです。 ・ぼくは、くじらぐもの背中に乗って旅をするところがいいです。くじらぐもに乗っていろいろなところへ、行ったのが楽しいから、楽しそうに読みたいです。 3. グループで音読の練習をし、交流する。 ・くじらになったり、子どもになったりして、役割音読をする。 【深めの発問】 グループの音読を聞いてよいところをみつけましょう。 ・さようならをするところが、遠くの方に呼びかけているようで本当にさようならをする感じが出ていていいと思います。 4. グループで再度、音読練習をする。	A： 友達と声を合わせて音読できるグループに対して ・これまでの学習を振り返らせ、さらに気持ちを込めて音読をさせる。 B： 友達と声を合わせて音読できないグループに対して ・声を合わせてできるように、かけ声をかけさせたり動きを合わせたりして音読をさせる。 ◎グループ交流 ・声を合わせて音読することの楽しさを味わわせる。 【深めの発問の意図】 代表グループの音読を見て、楽しく音読しているところを話し合い、自分たちの音読をさらに高めようという意欲化を図る。
深める	5. 音読発表会をして全体交流する ・くじらの背中に乗って旅をするところが、楽しそうに読めていたので良かったです。わけは、みんなが楽しそうに読んでいたからです。 ・みんなが、「おうい。」と呼ぶとくじらも「おうい。」と呼ぶところが良かったです。わけは、空に向かって呼びかけるように読んでいたからです。 ・「天までとどけ、一、二、三」の後に「こんどは五十センチぐらいとべました。」と、あるのでくじらが応援してくれたので、がんばったのだと思います。 ・「みんなは、うたをうたいました。」と、あるので楽しかったのだと思います。 6. 自己評価をする。 ・好きな場面を友達と声を合わせて楽しく音読できたかどうか、自分で評価をする。	◎全体交流 ・好きな場面や、声を合わせて読みたいところを声を合わせて楽しく読めていたか、考えさせる。 ※好きな場面や友だちと声を合わせて読みたいところを楽しく音読することができる。 【発言・音読】
まとめる		

単元指導計画

【ゆうだち】 ◎登場人物と同じように動くことを通して、想像を広げながら読むことができる。 ○登場人物と自分の経験を結び付けて読むことができる。 ＜言葉見つけの視点＞ ・挿絵 ・会話文 ＜読み取りの技＞ ・動作化 ・自分と比べて	【くじらぐも】 ◎声に出して読むことを通して、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。 【読（１）ウ】 ○書いたものを読み合ってよいところを見つけて感想を伝え合うことができる。 【書（１）オ】 ＜言葉見つけの視点＞ ・挿絵 ・会話文 ＜読み取りの技＞ ・役割音読 ・前の場面と比べて	【ずうっと、ずっと、大好きだよ】 ◎場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。 ○お話と自分の経験を結び付けて読むことができる。 ＜言葉見つけの視点＞ ・挿絵 ・題名 ＜読み取りの技＞ ・動作化
--	--	--

次	時	ねらい	学習活動	着目する語句、表現	指導の手立て ※評価規準
1次 (見通しをもつ過程)	1	・範読を聞いてあらすじをつかみ、好きな場面やおもしろいところを見つけて発表することができる。	1. 題名や挿絵を手がかりに、物語のあらましを予想する。 どんなお話かそうぞうしながら聞き、かんじたことを話そう。 2. 教師の範読を聞く。 3. 好きな場面について挿絵を選んで理由を話す。 4. これからの学習の見通しをもち、単元を通した学習課題を確認する。 ① 1年2組の子どもたちになって、想像しよう。 ② 音読発表会をひらこう。	☐ だいめい ☐ さくしゃ ☐ どうじょうじんぶつ	・5枚の挿絵を見ながら、「だれか・何をしたか」を考えることができるようにする。 ※『くじらぐも』を通読し、初発の感想をもっている。 【発言】
2次 (読み方を習得する過程)	2	・子どもたちとくじらぐもが体操をしているところを動作化することを通して、まねをしているくじらの様子を読み取ることができる。	1. 一場面を音読する。 くものくじらにであったときの子どもたちのようすをよみとろう。 2. 子どもたちとくじらぐもの様子を読み取る。 【深めの発問】 くものくじらが子どもたちのまねをしているようにやってみよう。 3. くじらにお話したいことを吹き出しに書く。 ぼくたちのまねをしていたね。いっしょにたいいくをしたいんだね。がっこうがすきなんだね。 4. 吹き出しに書いたことを入れて音読して聞き合う。	☐ 子どもたちが ☐ くじらも ☐ ～たり、～たり ☐ 挿絵	・体操をしている時の挿絵を手がかりにして、子どもたちのまねをしているくじらの様子を考えることができるようにする。 ※まねをしているくじらを学校がすきだと想像している。 【発言・吹き出し】

3 (本時 一年一組)	・呼びかけあっている子どもたちとくじらぐもの様子を動作化を通して、子どもたちがどんどん楽しくなり、はりきっている様子を読み取ることができる。	1. 前時の場面を振り返る。 2. 課題を確認する。 よびかけあっている子どもたちのようすをよみとろう。 3. 二場面を音読する。 4. 子どもたちとくじらぐもの様子を読み取る。 【深めの発問】 みんなは、どれくらいはりきったのだろうか。 5. くじらにお話したいことを書く。 みんなでいっしょにあそぼう。 まっててね。 6. 吹き出しに書いたことを入れて音読して聞き合う。	☐「おうい。」 ☐「おうい。」 ☐「ここへおいでよう。」 ☐「ここへおいでよう。」 ☐～も	・手を振り合っている挿絵を手がかりにして、呼びかけ合っている子どもたちとくじらの様子を考えることができるようにする。 ※くじらと一緒に遊ぶために、空に行きたいと思っていることを想像している。 【発言・吹き出し】
4 (本時 一年二組)	・3回繰り返される「天までとどけ、一、二、三。」の音読や動作化を通して、子どもたちのくじらぐものに飛び乗りたいという気持ちが高まっていく様子を読み取ることができる。	1. 前時の場面を振り返る。 2. 課題を確認する。 くじらぐもにとびのるときの子どものようすをよみとろう。 3. 三場面を音読する。 4. 子どもたちとくじらぐもの様子を読み取る。 【深めの発問】 三回の「天までとどけ、一、二、三。」の言い方は同じだったか。 5. くじらにお話したいことを書く。 みんなで力を合わせてよかった。くじらがおうえんしてくれたから、がんばれたよ。 6. 吹き出しに書いたことを入れて音読して聞き合う。	☐三十センチ、五十センチ ☐一、二、三。 ☐やっと ☐こんどは ☐いきなり ☐あっというまに ☐ふきとばす	・子どもたちとくじらの会話を板書に位置付けることで、子どもたちがもっと高くとぼうとする様子を考えることができるようにする。 ※子どもたちのくじらぐものに飛び乗りたいという気持ちが高まっていく様子を読み取り、想像している。 【発言・吹き出し】

5	・雲の上に乗って空を旅する子どもたちになりきって話すことを通して、子どもたちの楽しい様子を読み取ることができる。	1. 前時の場面を振り返る。 2. 課題を確認する。 くじらぐもとたびするときの子どもたちのようすをよみとろう。 3. 四場面を音読する。 【深めの発問】 くじらにのった子どもたちになりきろう。 4. 子どもたちとくじらぐもの様子を読み取る。 5. くじらにお話したいことを書く。 ふねがあんなにちいさくみえるよ。うたってたのしいな。 6. 吹き出しに書いたことを入れて音読して聞き合う。	☐ あおいあおい ☐ うみのほうへ、むらのほうへ、まちのほうへ。 ☐ どこまでもどこまでも	・空を旅している挿絵を手がかりにして、どんなことを話しているのかを考えることができるようにする。 ※雲の上から下を眺めて喜んだり話したりしていることを想像している。 【発言・吹き出し】
6	・くじらぐもと別れる時の子どもたちの様子を動作化することを通して、楽しく過ごせたという思いで見送った様子を読み取ることができる。	1. 前時の復習をする。 2. 課題を確認する。 3. 五場面を音読する。 さようならをするときの子どもたちのようすをよみとろう。 4. 子どもたちとくじらぐもの様子を読み取る。 【深めの発問】 子どもたちになってくじらに「さようなら。」を言おう。 5. くじらにお話したいことを書く。 さようなら。いっしょにたびをしてたのしかったよ。ありがとう。またきてね。 6. 吹き出しに書いたことを入れて音読して聞き合う。	☐ 「おや、もうおひるだ。」 ☐ 「さようなら。」 ☐ げんきよく	・初めと別れる時の2枚の挿絵を手がかりにして、別れる時の子どもたちとくじらぐもの様子を考えることができるようにする。 ※くじらぐもと楽しく過ごせた気持ちやもっと遊びたいという思いを想像している。 【発言・吹き出し】
7	・会話文の書き方を理解することができる。	1. 課題をつかむ。 「 」のつかいかたをしろう。 2. 「 」の使い方を確認する。 3. 「くじらぐも」の一部について、ノートに「 」を使って書く。 4. 自分で会話文を使って書く。	☐ 「」	・ワークシートを使い、教材文に「 」を書きこむことができるようにする。 ※自分で作った短文を「 」に注意して書いたり、読んだりしている。 【ノート】

	8 (本時 一年三組)	自分の好きな理由を付けて紹介し、友だちと声を合わせて楽しく音読することができる。	1. 前時までの振り返りをする。 2. 課題をつかむ。 すきなばめんをしょうかいして、おんどくはっぴょうかいをしよう。 3. 好きな場面や、友達と声を合わせて読みたいところを交流する。 4. グループで音読練習をし、交流する。 ○グループの音読をきいてよいところを見つけましょう。 5. 音読発表会をして全体交流する。 6. 自己評価をする。		5枚の挿絵を見ながら話し合うことができるようにする。 ※自分の好きなところと友だちの選んだところを比べ、違いに気付いている。 【発言】
3次 (読み方を活用して読む過程)	9	くじらぐもに手紙を書くことができる。	1. 課題をつかむ。 くじらぐもにてがみをかこう。 2. くじらぐもにお願いしたいことや、してあげたいことや、聞いてみたいことなどを書く。 3. 書いたものを読み返し、句読点の確かめをする。	☐ おねがい ☐ ききたいこと ☐ おれい ☐ してあげたいこと ☐ くじらぐもさんへ ☐ ～より	くじらぐもに言ってあげたいことを考えられるようにする。 ※くじらぐもに手紙を書いている。 【手紙】
	10	くじらぐもへの手紙を友達と読み合うことができる。	1. 課題をつかむ。 友達の手紙を読み合おう。 2. 友達の手紙を読む。 3. 感想を伝え合う。	☐ いいところ ☐ おなじところ	※友達のよいところを伝えている。 【カード】